

県民の森の植物 No.87

クマヤナギ (クロウメモドキ科 クマヤナギ属)

蔓性の落葉樹。つるが「熊」のように強く、若葉がヤナギの葉に似ていることが名の由来。ヤナギと付きますが別の植物です。

花は夏。目立たない緑白色の3mm程度の小さな花が多数咲きます。果実は6mm程の楕円形で、翌年に熟す2年型。花が咲いた年は米粒の半分くらいの黒茶色の若い実ができ、翌年の春あたりから膨らんで、夏にかけて緑から赤へと色づき、黒く熟します。去年の実が熟す頃に今年の花が咲くので、夏には花と実の両方が見られます。

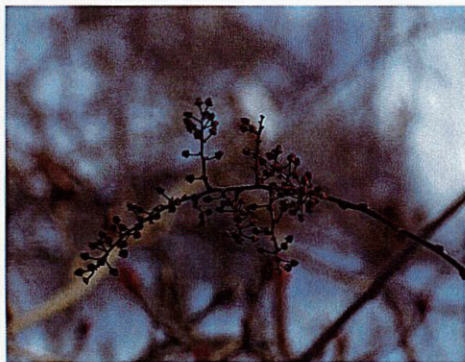
果実は甘味があり、果実酒として利用されます。つるは、粘りがあり硬くて強いので、かんじきの材料になります。昔は縄や鞭、牛の鼻輪にも用いられました。

また、天日乾燥した茎と葉は漢方薬として使われ、煎じて飲むと、健胃、整腸、胆石、口内炎などに効果があるそうです。

県民の森では、レンゲツツジなどの低木にひっそりと巻きついていることが多く、実が赤くなって初めてその存在に気づくこともあります。



2021/8/6 花



2021/12/20 若い実



2022/5/30 翌年の膨らんできた実



2024/7/8 赤く色付いた実 7/25 黒く熟した実